

語りのなかの横須賀

— 森光司氏の語り 3 —

瀬 川 渉

Yokosuka in Narratives

— Narrative by Mr. Mitsuji Mori(Part 3)—

Wataru SEGAWA

Part 1 and Part 2 of this paper took up the narratives of Mr. Mitsuji Mori, who was born in Yokosuka City, which covered the narrator's memories relating to his family, home village where he was born and sketches of what the narrator saw in his childhood in his home village.

This Part 3 introduces things and matters according to the narrator's memories relating to his lives mainly in Kawasaki City after he got a job at a plant of Nippon Kokan Ltd. (NKK) in Kawasaki. He lived in one of the company dormitories for single employees and got married in 1964 by an arrangement made by a person whom he got acquainted with while he was hospitalized in the NKK Hospital. The narrator regained the relation with Yokosuka later through contacts with the person who arranged his marriage.

は じ め に

小稿は、森光司氏の語り2の続編であり、川崎の日本鋼管に就職したころの記憶をスケッチしたものを掲載する。基本的には川崎での記憶であるが、当時の横須賀との関わりや、【図4】で述べる仲人夫婦が光司氏を介して横須賀に縁を持ったことなどは、時間をかけた聞き取りでなければ分からないことである。

スケッチは、すべて光司氏が描いたものであり、ほぼ原画の通りに掲載した。尚、筆圧等が印刷する上で足りない箇所は、瀬川が加筆修正し、光司氏の確認と了承を得た。

* 横須賀市自然・人文博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238-0016 Japan.
原稿受付 2015年5月12日 横須賀市博物館業績 第700号
Key Words: Narrative, Dormitory, Nippon Kokan (NKK), Yokosuka
キーワード: 寄宿舍, 日本鋼管, 横須賀

図 解 編

【図1】は、光司氏が日本鋼管に勤めたと同時に入った藤崎第2寮の間取り図である。【図2】は藤崎第2寮の全体図である。

入寮当初は、3人部屋であったが、後に5人部屋となった。これは、金の卵と呼ばれた団塊の世代が大量に日本鋼管に就職したためだという。同室には日本鋼管に勤めていた有名なサッカー選手もいた。第1寮は50人くらい、第2寮は100人くらいが住んでいたが、各々勤務時間が違うので、同室の全員が揃うことはなかった。

「語り1」で光司氏の日本鋼管での勤務地を述べているが、扇町に勤務する前に1週間、渡田で研修を受けた。その後、扇町での勤務が始まった。藤崎第2寮から扇町への通勤は、藤崎から池上新田までトロリーバス、池上新田から浜町3丁目まで市電、浜町3丁目から扇町まで徒歩7分であった。トロリーバスは混雑して乗れないこともあった。今では考えられないが、バスの後ろに2、3人はしがみついていた。

会社にも食堂があったが、寮にも食堂があった。寮の食堂は6人から8人くらいが厨房に立ち、午前6時から8時、午前11時から午後1時、午後4時から6時半、午後8時から9時、の時間が開いていた。会社や寮の食堂で夕食をとることもあったが、川崎駅の周辺の居酒屋や歌声喫茶に行くこともあった。通勤費は自腹であったが、市電もトロリーバスも同じ定期で乗車できたので、楽に川崎駅まで行くことができた。休日は山登りや買い物に行ったと思うが、やはり休日の記憶よりも仕事終わりに川崎駅周辺に繰り出した思い出のほうが残っている。

【図3】は、藤崎第2寮の次に住んだ大田区上池上の家であるが、ここは会社の寮ではない。ここに住み始めるおよそ2年前の1959年1月15日か16日に、光司氏はスキーをしているときに転び、骨折をしてしまった。足の骨折なので、本来であればギブスを巻き、すぐに退院できるが、自分だけではトイレもいけないので川崎にある日本鋼管病院に入院した。3月いっぱい入院したのち、静岡県伊東で1カ月間の温泉療養をした。5月から元の職場にしばらく勤務し、上池上に住み始めたのである。この上池上の家は、日本鋼管病院に入院していたときに、大腿骨の複雑骨折で長期入院していた同室の男性(日本鋼管技術研究所の事務職)の家なのである。その男性には、妻と1人息子がおり、2人だけでは心配ということで、1961年くらいから光司氏は同居を頼まれた。家屋は男性の所有であったが、土地は借地であった。食事や風呂は会社で済ましたので、ただ寝に帰っただけであった。ここにはおよそ1年住んだのち、渡田にある寮に移った。

同室に入院していた男性は事務職であったため、退院後すぐに職場復帰できた。

光司氏も退院後すぐに扇町の職場に復帰することができた。しかし、怪我や病気で入院した場合、職場復帰できない人もいた。そのような人は退院後、施設管理などを行う子会社に出向させられ、日本鋼管の関連施設の草むしりや清掃などの業務を任された。完全回復したと認められれば日本鋼管に呼び戻されるが、元の職場には変わりの人材がすでに配置されており、全く同じ職場に戻れるわけではなかった。

【図4】は、上池上にあった居候先の家周辺の図である。現在の東京都大田区仲池上1丁目である。近くには、子安八幡神社や林昌寺があり、広場もあった。この広場で、居候先の息子さんが小学校に入学した頃、光司氏が自転車の乗り方を教えた。

子安八幡神社は、1964年2月に光司氏が結婚式を挙げた場所でもある。実は、居候先の主、つまり入院中に知り合った男性が光司氏と奥さんとの仲人であった。その男性は、長期入院の甲斐もなく足が不自由になってしまったため、仲人の家の近くの神社で挙げた。参列者は親族20人ほどだった。

光司氏が日本鋼管に勤めてから、親族が川崎に遊びに来ることはなかった。光司氏も盆や正月、何か用があるときに津久井に帰るくらいだった。ただし、実家に帰るときには米を持参していくこともあった。この米とは、会社からもらった米である。具体的には、会社の食堂を利用するときは食券を購入し厨房で実際の食事と交換するが、食券を購入したが食事と交換しなかったときに、カハイマイと称する米に変えてもらえたのである。

当然であるが、この仲人の男性との交流は続いた。光司氏の紹介でこの男性は津久井の園乗院に墓を立てた。もともと埼玉に墓があったようだが、自分らがいなくなった後、園乗院のほうが息子も管理しやすいだろうと考えたという。現在、仲人夫婦は横須賀市内の施設で暮らしている。

【図5】は、渡田寮の間取り図である。【図6】は、渡田寮の周辺図である。

渡田寮には、1962年から1964年2月まで住んでいた。渡田寮は、規模が小さく、20人くらいが暮らしており、光司氏は二人部屋に住んでいた。食堂や風呂はなかった。渡田寮の近くにあった冷凍工場とは、製氷工場のことである。この製氷工場は、オーナー自ら鉄筋コンクリートで建設したようで、後に違法建築ということで撤去された。

【図7】は、結婚した1964年2月から1968年まで、つまり新婚当時住んでいた家の間取り図とその周辺図である。隣接する自転車店が大家さんであった。また隣には、川崎市の土木事務所があり、早朝になると日雇いの仕事を求めて人が集まって

いた。

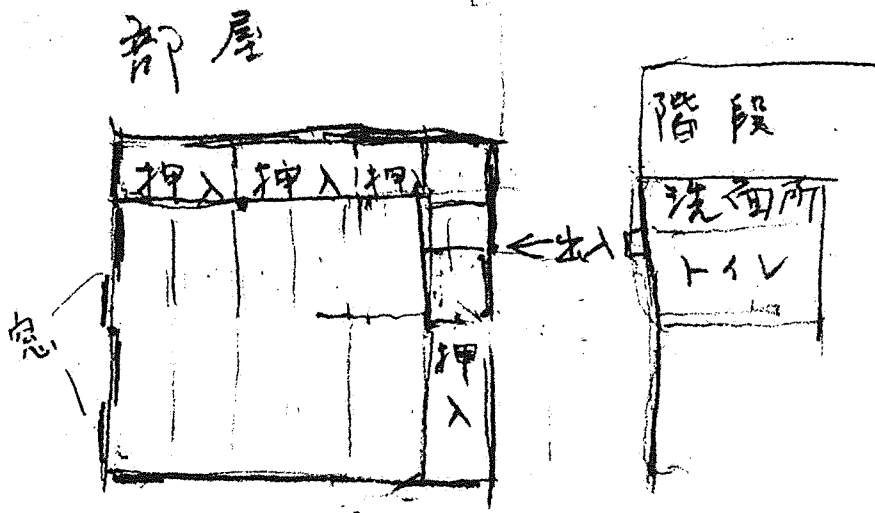
【図8】は、日本鋼管の工場群の中を流れる運河上にあった「だるま船」をスケッチしたものである。このだるま船は、図9のような荷船を何艘も連ねながら、日本鋼管の工場で製造された配管などを運搬船まで運んでいた。また、このだるま船には、夫婦と小学生の娘さんが暮らしていた。娘さんがどこの小学校に通っていたかはわからないが、中学生になったのを期に別のところに住み始めたようであった。

訂 正

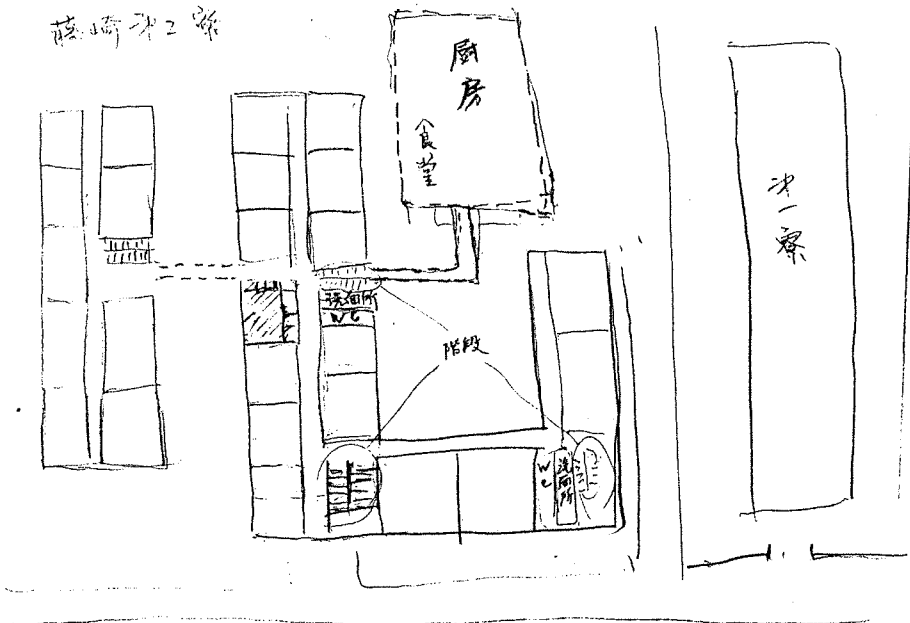
森光司氏の語り2の【図11】で、砲弾の大きさを小学3年生の光司氏の背丈と比べて描いていますが、イメージでは肩くらいの高さでしたが、実際はもう少し大きい可能性があります。

付記

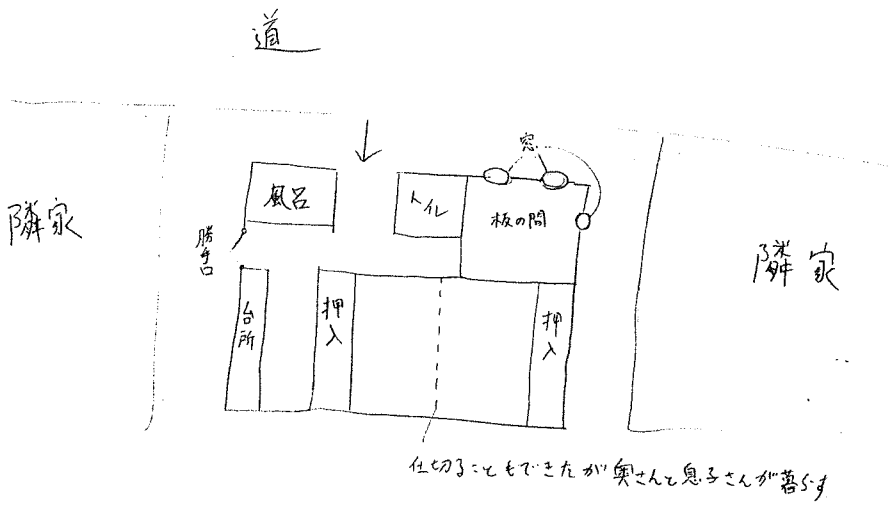
前稿に続き、森光司氏には、多大なるご理解とご協力をいただきました。光司氏の絵心があればこそその成果です。記して御礼申し上げます。



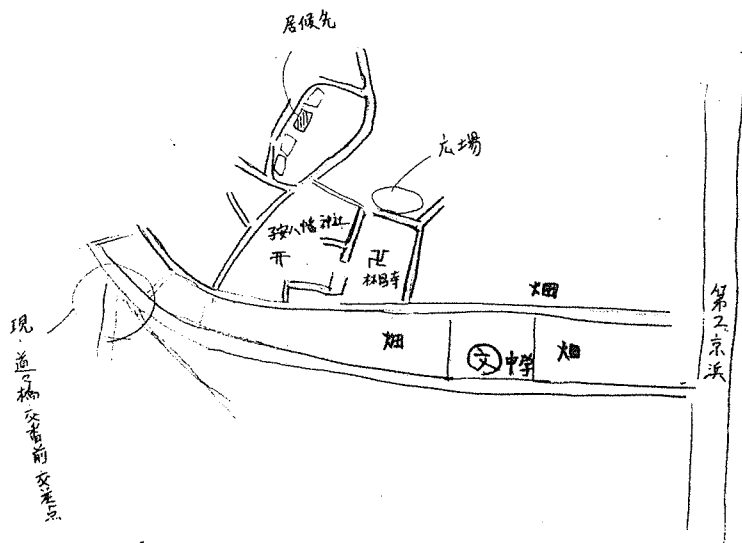
【図1】



【図2】

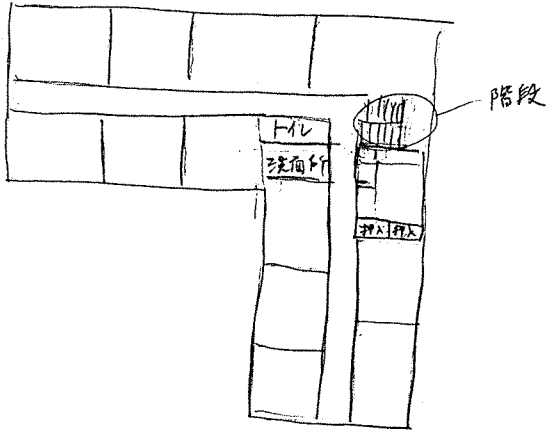


【図3】

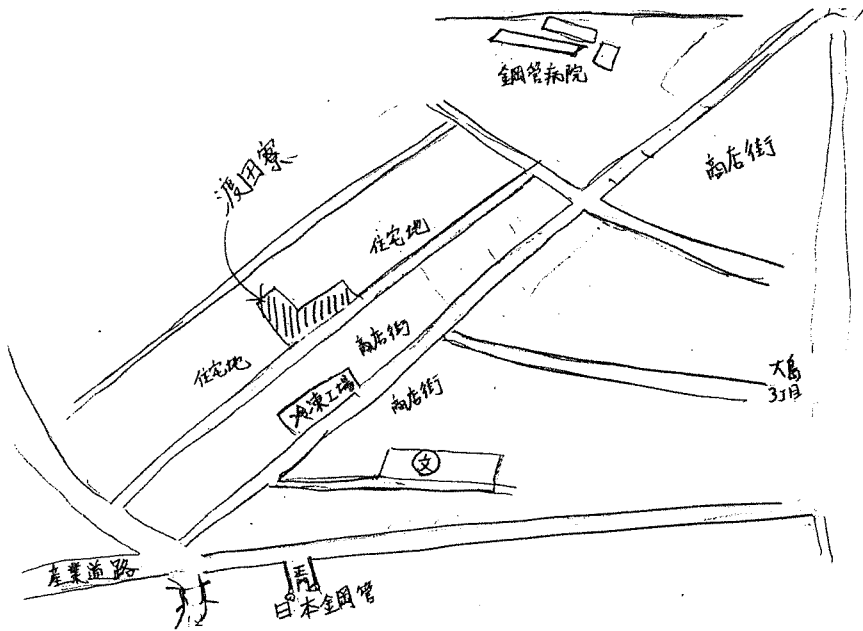


【図4】

1年半 結核前
32年~39年迄
渡田寮

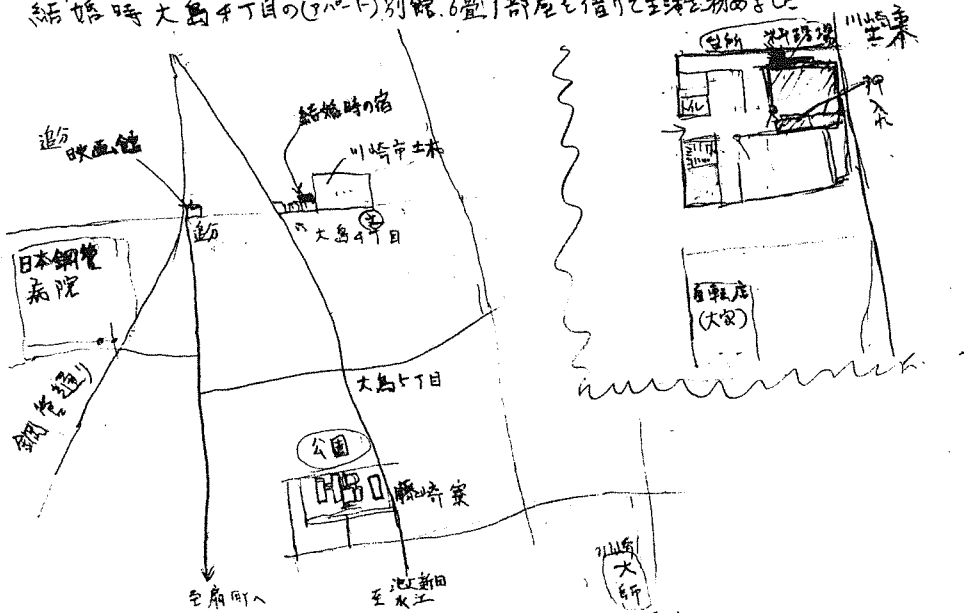


【図5】

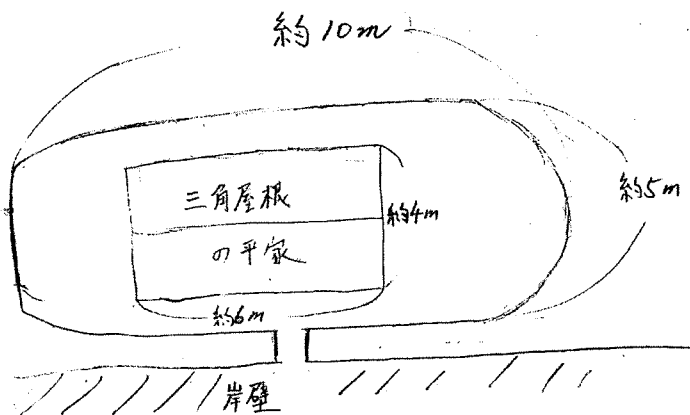


【図6】

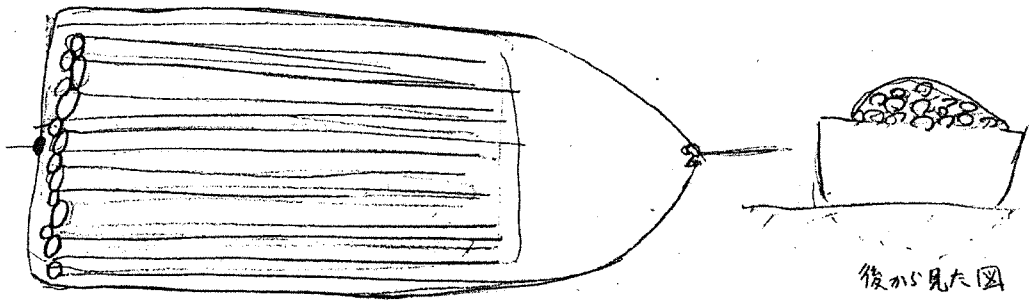
539年2月～543年
 結婚時大島千丁目の(アパート)別館.6畳1部屋を借りて生活を初めよ



【図7】



【図8】



後心見た図

【図9】

